

PROFILE

1943年韓国・京城生まれ。消費生活コンサルタント。福祉サービス第三者評価調査者としても活動。趣味は旅行。



NPO法人ワークショップ「いふ」  
熊本市中央区水前寺6-41-5千代田レジデンス106  
TEL : 096-384-6939

日常の暮らしに関心を持ち  
消費を考えることが  
より良い暮らしにつながる

—NPO法人ワークショップ「いふ」立ち上げの経緯を教えてください。

星子 「いふ」は、英語のifです。「もし…」を想定して行動する、という活動内容を表しています。例えば、子どもが独立したら…、自分が年老いて介護が必要になったら…、など、さまざまな状況を想定して暮らしを見つめ直すことで、よりよい社会環境づくりができるのではないかと考

えました。初めは、環境問題、農業、道路交通、医療などのマーケティング調査を手がけていましたが、次第に自分の関心の高い問題に絞り込み、現在は介護・医療福祉関係に力を入れています。

—活力の源はなんですか。

星子 根が物好きで好奇心旺盛なのでしょうね。学校を卒業してすぐ今は廃刊となった地元の新聞社・週刊

取材担当  
熊本県立大学2年  
東史華

熊本に勤め、文化生活関連の取材をしていました。退職後、活躍している女性の話をもっと聞きたいと思い、熊本で輝いている女性たち取材し『熊本の女性101人』と題した本を自费出版しました。そのときに多くの方を取材し、多様な生きざまに関心を持ちました。消費生活コンサルタントの資格を取得したのは、「生きることは、何かを消費しながら暮らすこと」と考えたからです。町を歩けば標識にかぶさる樹木が、銀行に行けば待合室の景観が、ドラマを見れば女優の服やセットの家具が気になります。どんな物事やシーンが人々の消費を促すのか、消費によって暮らしは、日本の経済はどう変わるのか。日常の暮らしに興味をそそられます。『介護施設ガイド』を発行したのも消費の究極は「人生の消費」で、自分に介護が必要となった時のことを考えたからです。

—女子学生に向けてのメッセージをお願いします。

星子 みなさんには、できるのに行動につなげていないことがたくさんあると思います。自分の可能性を探すためには、意欲と行動が大事です。結婚や育児を機に一時的にできなくなるがあっても、その時々でできることを行えばよいと思います。

輝きの軌跡

星子邦子さんの  
キャリアストーリー

- 1963年 学校を卒業して地元  
の新聞社に就職
- 1968年 結婚
- 1969年 第1子出産
- 1971年 新聞社を退職後、消  
費生活コンサルタントに
- 1974年 第2子出産
- 1985年 『熊本の女性101人』  
出版
- 2000年 NPO法人ワークショッ  
プ「いふ」を立ち上げ、  
理事長に就任
- 2001年 『老人介護施設ガイド』  
を企画、発行

75歳までは仕事を続けることが目標。デスクワークだけでなく、自分だからできる仕事を見つけて。働く女性は輝いていると思いませんか？

